

総括（在宅医療・福祉コンソーシアム長崎専任教育職員）

長崎大学医学部医学科助教
山之内 孝彰

実習科目の「在宅チーム医療早期体験学習」、「地域包括ケア早期体験学習」、「地域包括ケア早期体験学習」や、演習科目の「在宅がん治療特論」、「在宅緩和ケア特論」、「地域包括ケア特論」では他学部学生の視点の違いを感じ、将来の専門職の在宅医療における役割を考える機会となったようである。本年度で予定した13科目全てが開講された。来年度以降、さらに有意義だと感じられる科目となるよう、ブラッシュアップしていきたい。

長崎大学歯学部助教
介田 圭

薬学・看護学の統合教育体制に医学・歯学等の教育者を加え、「長崎薬学・看護学連合コンソーシアム」事業を、さらに拡大・充実させた「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」が組織され、約2年が過ぎた。昨年は、在宅医療・がん医療・緩和ケアに関わる専門職連携教育を大学間合同実習として実践できるカリキュラムを作成、本年度は、その質の保証を目標として頑張ってきた。さらに、来年度は、その魅力をできるだけ多くの学生さん達に伝えていきたい。

長崎県立大学看護栄養学部看護学科准教授
吉原 律子

提供科目の中でも、模擬事例で演習する『特論』や在宅ケアの現場から学ぶ『実習』に参加した学生は、「協働」の中心は療養者（患者）であり、その支援には多職種の専門的ケアと連携が不可欠であることを実感していた。さらに他者の理解やケアの提案には、コミュニケーション力や自身の専門領域を高める必要があるとの気づきが多くみられ、学生、教員双方に意義のある科目であった。本事業への関心は、徐々にではあるが学生間に出てきている。今後はこれが実質的な多学部学生の参加につながるよう、その魅力を伝える努力が必要である。

長崎国際大学薬学部准教授
岩下 淳二

学生参加型の早期体験学習や在宅がん医療・緩和ケア実習では、初めて目にする現場の専門職のことや自身が目指す専門職以外の職種にも関心を寄せ、進んで学習する姿勢が見られた。在宅医療の現場や、地域包括支援センターの訪問を通じて患者さんや介護利用者の立場に立った生きた学習ができたものと評価している。来年度は、今年度新規に立ち上げた科目を含め、内容の充実に努めていきたい。